

(B 提案)

(様式2) 技術提案書 (1)

完成外観イメージ

歩道通りより見た外観イメージ

私たちの3つの提案

福祉と保健と医療の融合は市民のアクティビティがあってこそ可能です。私たちはそのアクティビティを、3つの視点から建築を通して目に見える形で実現します。

- 開かれた施設**
計画地が学童ゾーンにあり、道路の交差点に位置することのポテンシャルを最大限に活かします。多目的ホールを中心に集え、相互の誘引効果を高めます。
- ユニバーサルデザイン**
市民の活動が外からも内からも乗りやすくすることにより、人々のコミュニケーションのバリエーションが取り除かれ、日本のプログラムをはるかに超えたアクティビティが生まれることが期待できます。
- 安心と安全**
広域災害への安心を提供できる施設であることを提案します。1階の「ブリックゾーン」を、災害時対応できるよう、様々な工夫を提案します。

景観デザイン/緑の丘をつくる/3つの提案

- まちかどプラザ**
学童通りと北条通路に面して、L型の広場を設け、基木と大きな庭の下、市民にいつも開かれた中外部空間を提案します。
- ガーデンテラス**
建物は近隣の影響に配慮してセットバックさせ、段状の屋上庭園が連続したガーデンテラスを設けて、学童通りの景観に調和させます。
- 緑のスクリーン**
建物や高層階の一部は、ツタなどによる壁面緑化を行い、隣接住宅への視線や騒音及びパチンコ店からの景観に配慮します。

外観デザイン/楽しさを包むシンプルな箱/3つの提案

- 四季とにぎわいを醸し出すスクリーン**
学童通りの基木の緑と内部の賑わいが、透ぬいガラスのスクリーンを通じて交錯するシンプルな外観デザインを提案します。
- 2つのオープンショールーム**
まちかどプラザと多目的ホール、外と内を隔ちる2つの中心を開かれたショールームとしてデザインします。
- 木の温もりにもまれた安心空間**
まちかどプラザ1階や学童通りはウッドデッキで連続させ、木製パネルの大きな庇や基木と木の温もりにもまれた環境を作ります。

(様式2) 技術提案書 (4)

安心と安全を提供する施設の提案

ユニバーサルデザイン/さりげない工夫をデザインする

風雨に強い風障壁/冬の強い北西風に対し、通常の2倍高い風障壁を確保。傘立と交差し合わせた雨天時の転倒防止にも効果。

だれでもキーンク/立体駐車場は、本館と階高を合わせ、各階から水平移動が可能。各階に身障者用スペースを確保。

アクセシブルな空間/曲線や色調をサインと一体化させて、目印や誘導サインとしてデザインし、受付、トイレなどでも分かりやすくします。

だれでもトイレ/各階に多目的トイレ、哺乳室を設け、1階多目的トイレはオストメイト対応とし、男子トイレにもベビーシートを設置。

アクセシブルな階段/階段は全て誘導基準に準拠し、廊下にも木製手すりを設置。手すりは非接触型を採用し、原木製ハンドルにより静電気を防止。

多目的ホール/様々な利用に対応できる可変性システム。床材はフッ素樹脂のある弾性床材で事故を低減。床外周部デッキにより水平移動での安全性を確保。

大規模災害時の対応/災害拠点としての施設活用

通常の1.5倍の耐震強度を確保
構造の重要部係数を1.5倍として、予想される東海沖地震の震度6弱より強いクラスを想定し、安全耐えられる構造体計画します。

災害発生時の対応/緊急避難センター機能の確保

- 濃化の恐れのある燃焼時の火災発生が早く、歩行者が安全に避難し、この燃焼の最大1.2mのずれを生じられる恐れがある可能性大。地下水位も高い事から地下ピットがコストアップとなります。
- 消防/非常用発電機の打込(災害時の3日分)を確保。
- 水害/水害を想定し二次被害として飲料水にも利用。給水車の受け入れ可能な取水塔を設置。
- 洪水/汚水貯留槽を災害時の10日分とし、公共下水道が使用不可時に対応。
- 備蓄倉庫/緊急センターに関連して設置し、防災備品や食料などを保管します。

施設の緊急時利用

- ふれあいギャラリーと緊急センター併設の可動間仕切りを稼働し、一体空間にしてトリアージ(緊急救護スペース)として利用。
- 待合ホールには災害用電源や医療ガスを設置。
- 多目的ホールは一次避難所として利用できるよう可動間仕切りや手換電源を用意します。
- 相談・情報コーナーは、避難時の連絡網として利用できる。インターネットの他、衛星通信網や遠隔医療連携など多数の無線利用を可能とし、電源のバックアップにより通信機能を確保します。

工法についての提案/フリースペースの確保と工事騒音の低減

- ロングスパン・ダブルリング構造
柱間をPCコンクリートによる1階とし、柱を高さとし、各階のダブルリングの間に設ける事で、各コーナーに柱のない自由空間を創出。
- フラットスラブ構造
小梁のないフラットスラブ構造を採用し、全体階高を確保しながら、各コーナーに柱がなく天井を確保。木材により、工断断や騒音騒音の低減を実現。

省資源・省エネルギーの提案

省エネ/施設管理コストを約15%低減

木種を絞るエアフロースクリーン
公道通りに面したガラス面は、Low-Eガラスと透明型遮熱ブラケットによる遮熱効果とし、内部の熱を確保させて空調効率を大幅アップさせます。また回収した暖気は、多目的ホールの床暖房に利用します。

木の温もり床暖房
パッシブソーラーを使って太陽熱で暖まった空気を、4階ふらぬい交差壁と高層階有圧送風機の木のフローリング床下へ送り、ほかにした木の床暖房にします。

LCC低減を実現するハイブリッドシステム
自然換気、断熱や断熱窓、断熱打センサーなど実績のあるシステムを組み合わせることで、平均約15%の低減を実現します。

省資源/環境との共生を実現できる環境づくり

エコマテリアルの積極的利用/木材や石材、和紙など環境負荷の少ない材料を採用し、明るくもどかな雰囲気や和の味わいに加え空間を構築。

リサイクル材の積極的利用/再生砕石や再生材使用の内装材、タイル、MDF(再生木質)など、リサイクル材を積極的に活用するようデザインに活用。

建設段階での廃棄物削減/土壌やコンクリートの利用、工事の省資源などに配慮。

安全/毎日の利用中での安全な環境づくり

シラック対策/エコマテリアルの利用と空気清浄機や紫外線の照射にも対応した材料選定と現場段階の測定を計画。

防犯対策/夜間照明に対応し、目立たない監視カメラや出入口管理。危険な場所をならぬ照明などの適切な配置。

コスト削減のための提案

インシヤルコストの低減

- コンパクトな平面・無計画でコスト削減・工期短縮。
- 機能的なプランニングにより無駄を削減。
- フラットスラブの採用により無駄を削減。
- 立体駐車場は自走式鉄骨汎用タイプ(型式認定品)を採用。
- 建築・設備は高品質の組み合わせにより機能性とデザインを両立。

ランニングコストの低減

- ガラススクリーン部の光熱放射防止塗料により、窓枠のコストを大幅に低減。
- PC・コンクリート・プレハブなどの高性能部材の採用。
- 壁に強い高耐久塩化配管の使用など長寿命部材を採用。
- バルコニー・屋上庭園の設置によりガラス清掃費を低減。
- シンプルな設備システムを採用し、更新費を削減。
- 電灯の種類を限定し、維持管理を低減。

(C 提案)

様式2) 技術提案書 (1)

No. C

(仮称)めまづ健康福祉プラザ設計プロポーザル提案書

福祉・保健・医療の連携による
ユニバーサルプラザ
～開かれた福祉のひろばの実現～

- 家庭と地域のかかわりを深める施設
- 空間の自由性を高めるユニバーサルスペース
- 都市と施設との連続性・開放性の形成

■施設デザインコンセプト

- ・大屋根に集う福祉の家
大きなひとつ屋根の福祉の家は、でかい、ふれあい、まなびあひ、ついでい、一丸ムスが心地よく暮らしの実現を目指す拠点施設を目指します。
- ・明るく開放的
透明感のある外装材を使用し、親しみやすく開放的な施設とします。
健康・福祉に対する意識向上を促進する拠点施設とします。
- ・共に生きる
最上部の大柱が全体を覆うことで家と地域の一体感、健康・保健・医療の一体感を表現します。
- ・色彩と素材
大柱や外柱には沼津市の花である「ハマユウ」の清涼感のある色彩をモチーフとします。
内部は暖かみのある木質系の素材とします。



完成外観イメージ (南西から望む)



宇園通り側の景観展開

様式2) 技術提案書 (3)

No. C

■人にやさしいユニバーサルデザイン

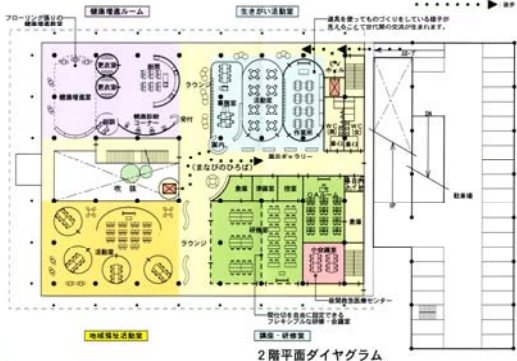
- ・使いやすいディテール、空間構成、バリアフリー計画、わかりやすいサイン計画、色彩計画などによって障害のある方も平穏やお楽しみも、市民の皆様も自由に利用出来る施設とします。
- ・高い質なる健康福祉プラザと立体駐車場は、各層をスロープなどで接続し、駐車場から施設へのスムーズなアクセスに配慮します。
- ・いろんな世代、いろんな人たちが各々に活動している様子が伺えることで、新たな出会いが生まれ、交流が広がります。
- ・開かれた広々とした空間は、より豊かなスペースとして活用します。

▲であいのひろばイメージ

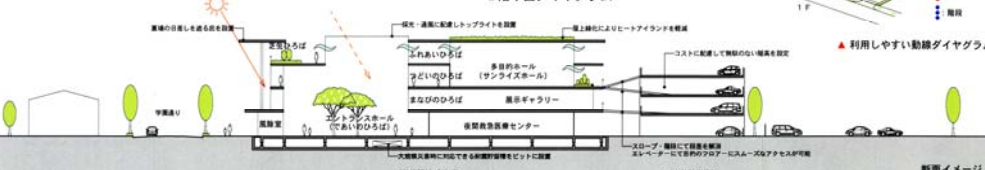
▲まなびのひろばイメージ

▲大規模災害時での施設活用

- 1階の避難誘導・医療センター以外は設計時に考慮が少なく、空室に可変性を付与して、フロア全体を大規模災害時に活用できるように配慮します。
- 構造方式は免震構造を採用します。
- 1階床下ピットに避難用外構を設け、水を浄化して災害時の飲料水などに利用します。
- 自家発電設備を設けます。



2階平面ダイヤグラム



断面イメージ

▲利用しやすい動線ダイヤグラム

＜健康福祉プラザ＞

＜立体駐車場＞

(D 提案)

(No.2) 技術提案書 (1/4)

No. D

地域の絆を再生する
市民の緑創空間
情報発信と市民の主体的な参加を促す
保健・福祉活動のホームベース
保健福祉の多様な活動を可能にする
支援活動のフリースペース
遊びの発見や工夫の中で親子が触れ合う
緑の屋上空間

施設の外觀デザインについて

- 地域社会再生のシンボル
私達が提案するぬまづ健康福祉プラザでは施設を利用するそれぞれの人が主役であり、施設はその舞台です。それゆえ、建物の外観は施設における人々の活動そのものが外部から溢れ、地域社会再生のシンボルとして表現されるものとします。
- 学業通りに面して人々の交流の拠り所となる市民の緑創空間を設けます。緑創は建物の中での活動が外に溢出し、通りを多く人が肉体的活動に転れやすくなる空間です。建物を通りから利用可能にセットバックさせ、オープンカフェやストリートファニチャー、花木、大きなパブリックのルーバーにより緑創空間を演出します。
- 学業通り側の壁面は透明なガラス張りとし中の活動が外から見えるようにします。内部での活動がそのまま施設の内側となります。また、外から中の様子が見えることにより中見出し施設となります。
- 2階・3階の学業通り側には緑創バルコニーを設け、市民がアウトドアの憩いの場となる緑創を確保します。緑創バルコニーを市民自らの手で飾りつけることで市民参加の緑創デザインとなります。

外観イメージ

(No.2) 技術提案書 (4/4)

No. D

環境・景観への配慮

- 学業通りの都市景観の形成
学業通りと緑の交流の道とを軸として、通りを軸として緑豊かな市民の緑創空間を設けることで地域の顔のつくりを形成します。
ここで施設を利用する人それぞれが主役であると考え、建物のデザインはシンプルな形状とし、草木の緑と調和するデザインとします。
学業通りに面して緑創バルコニーを設け、ボランティアの管理による緑化を行うことで、市民が自らの手で飾り付ける市民参加の都市デザインをおこないます。
- 緑創空間の維持
敷地内にも並ぶことになる緑の環境を設けます。
敷地南側は近隣の住居と配慮し3m以上の高さを確保します。
緊急車両等が通行する近隣の住居と交差点から十分に離れた位置に設けます。
近接住居のプライバシーに配慮し駐車場は視線の高さに沿って設け、保護柵はプラザ棟の東側面の開口部はスリット状として視線の制御をおこないます。
駐車場北側の壁面はツタ系植物による緑化をおこないます。(植栽計画参照)

数値目標とコストの削減

- 構造計画とコストの削減
保護福祉プラザは耐震基準倍率1.5倍を条件に鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造での建設費を比較し最も安く鉄筋コンクリート造とします。
医療機器ゾーン・医療品庫等の部分的な免震床の採用は全体を免震床とした場合に比べ建設費約10%の削減となります。
- 空調方式とコストの削減
災害時の施設利用とインシヤール・ランニングコストを考慮し、ガスヒートポンプパッケージを主体とし、一部、空調設備センターの設置等を電気ヒートポンプパッケージとする空調方式とします。ガスヒートポンプパッケージ方式を主体とすることで利用部分の個別空調が可能になり、計画を柔軟にした方式と対応した場合はインシヤール・ランニングコスト、CO2削減に削減することが可能です。(全館の空調を電気方式とし冬季の災害時に発電機からの発電とする場合、発電機設置が大幅にインシヤールコスト、メンテナンスコストが増大します。)

省資源・省エネルギーの計画

- 「ぬまづ省エネアクション33の善手プログラム」の実践
全12チーム中10チーム、全33アクション中15アクションを実現し省資源・省エネルギー施設とします。

ユニバーサルデザイン

私達はユニバーサルデザインとは若者男女、幼児、障害者、外国人をはじめ誰もが安心して生活していくためのデザインであると捉え、平等の基準を考慮しながら、また高齢者、障害者、管理者などのさまざまな意見聞きながら基本設計、実施設計を進めていきます。

| 項目 | 削減率 | 削減率 | 削減率 |
|----------|------|------|------|
| インシヤール | 100% | 110% | 110% |
| ランニングコスト | 100% | 118% | 100% |
| CO2削減 | 100% | 129% | 105% |
| 建設CO2 | 100% | 195% | 108% |

※1215年：15年分のインシヤールコスト削減率・ランニングコスト削減率

(E 提案)

様式2) 技術提案書 (1)

No. E

沼津市日の出町の新たな集いの場 富士山を望む日だまりの丘

ふれあいを中心として生きがい、健康、安心・快適を提供する場として、市民の
皆様に親しまれる、明るく、使いやすい(仮称)ぬまづ健康福祉プラザとします。

- (仮称)ぬまづ健康福祉プラザ整備基本構想の内容を遵守し、使いやすいはじめて来館された方でも一目で行きたい場所がわかる明快な施設構成とします。
- 学園通りおよび北側道路に対して広いスペースを確保し、エントランスの前に広場と並木を配した快適な歩行空間を設け、学園通りに対しての施設の顔をつくります。
- 施設と駐車場を一体の建物としてまとめたシンプルな外観とし、景観に配慮するとともに道路を隔てた北側隣地に対して建物ヴォリュームを抑え近隣への日影の影響のない計画とします。

様式2) 技術提案書 (4)

No. E

地球環境にやさしく快適な建物とします

自然の光や風を建物内に取り込みふれあいホールの吹き抜けを活用するとともに、床暖房など利用者の快適性を高める省エネルギー計画とします。
・省エネルギーによる省エネルギー、省資源、省コスト、省CO2削減、省エネルギー削減など自然エネルギーを使用することで化石燃料を削減します。

プレキャストコンクリートの採用により、型枠用の合板使用を減らし、熟成材を削減しCO2削減に貢献します。

長寿命化とランニングコスト削減で100年間LCC (ライフサイクルコスト)20%削減をめざします

ライフサイクルコスト削減プログラム

| プログラム | 目的 | 具体的な方法 |
|------------|------------|---|
| イコバ | 省エネ | ・高断熱・高気密・高遮熱 ・省エネ設備の導入 ・省エネ設備の保守・点検 |
| 長寿命化 | 耐久性 | ・高品質材料の採用 ・高品質施工の確保 ・高品質メンテナンス |
| ランニングコスト削減 | ランニングコスト削減 | ・高品質材料の採用 ・高品質施工の確保 ・高品質メンテナンス |

東海地震において安全性の高い構造計画を実現します

PCaF構造の採用
・高強度のPCaF構造 (プレストレス導入プレキャストコンクリート構造) を採用し、大スパン・大断面による大開口部を実現します。
・工場のプレキャスト部材を現場で組み立てることで、建物の仕上げの一部としても使用できる高品質の高強度材料となるとともに、現場作業を軽減し、工期短縮を図ることも可能です。

低コストで耐震性の高い構造計画
・建物の構造耐力係数(α)は2017年地方自治体耐震計画の基準に相当するものとする。同時に、耐震ダンパー・制振ブレースを採用し、地震時の揺れが予想される東海地震においても、構造体ほとんど被害が及ばない、耐震性の高い構造とします。

建物を安全に支持する基礎構造
・GL-20m以上の堅固な基礎を支持層とする杭基礎を採用します。
・先端部を大きく拡大した高支持力工法を用い、外周を鋼管で補強した強度の高い杭を採用して杭本数を減らし、経済的で、大地震後も建物を安全に支持できる基礎構造とします。

沼津のモデルプロジェクトに基づいた計画とします

最先端のユニバーサルデザインの実現
・「ユニバーサル施設」をめざし、お年寄りや体の不自由な方にも利用しやすい環境を整えます。
・「情報バリアフリー」への時代を先取りした対応
・国や各種団体が定める様々な情報バリアフリーの中で最適なシステムを整備を提案・検討します。
・「災害対策」を敷いたバリアフリーの実現
・災害時や避難者にも安全でわかりやすい避難計画とします。
・避難階段を敷かない車椅子利用者のための一時待避スペース (駐車場の避難など)、災害時の不自由な方への避難や連絡の伝達方法など災害対策にやさしい施設をめざします。

災害時においても通常と変わらない機能を発揮できる計画とします

防災拠点の拠点として必要なライフラインを確保します。

災害時の自立
・災害発生時の自立
・災害発生時の自立
・災害発生時の自立

電力供給
・電力供給
・電力供給

(F 提案)



様式2 技術提案書(4)

環境・景観への配慮

● 都市景観への配慮

- 字高通りを構成する、近津中学校、市立近津高校、金岡中学校、西高尾中学校と連続する学校施設群は、「景から景への景」(シンポジウムで有名な建築デザイン)といふ共通のテーマを持ち、三枚連続した「字高通り」として印象付けています。
- 施設は、その中で近津中学校の古い校舎から、近津中学校と市立近津高校の間に位置しており、字高通り沿いの都市景観にとって大切なポジションを占めています。
- 施設の計画に当たっては、周辺ある景観の要素を尊重し、字高通りの景観の連続性がより確かなものになるよう配慮します。

● 周辺環境への配慮

- 西・北前面道路沿いに建物を二階程度セットバックし、建物による圧迫感をやわらげます。
- 西・北前面道路沿いに建物を二階程度セットバックし、建物による圧迫感をやわらげます。
- 西・北前面道路沿いに建物を二階程度セットバックし、建物による圧迫感をやわらげます。

● 日照面

- 第1層・第2層・第3層の高度住宅専用地域の日照規制を十分満足する計画とします。
- 第1層 第2層 第3層

工 敷地の有効活用とコスト削減に対する考え

● 敷地特性を活用した施設配置

字高通り、市道306号線に面した「西側・南側(テラス)」及び「北側に当施設を包むように設計されたランドスケープ」をこのあたりに配置します。

● コスト削減に対する考え方

● 省エネルギーについて

● ライフサイクルコスト削減のイメージ

● デザインコンセプト

● ユニバーサルデザインについて

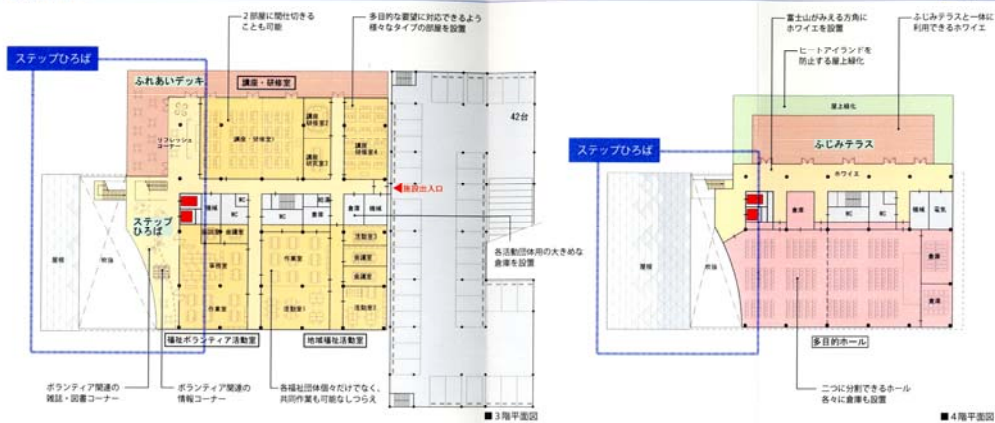
「平成17年度(仮称)ぬまづ健康福祉プラザ基本・実施設計業務委託指名プロポーザル」

(G 提案)



構案2
緑化提案書 2-4

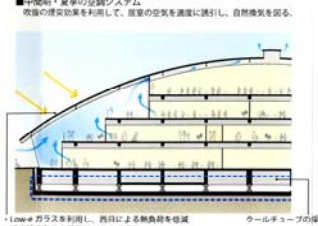
案 G



2) 動物の有効活用とコスト (イニシャル・ランニング) 軽減に対する考え方

- 夜間電力によるランニングコスト低減**
 - ・安価な夜間電力による水蓄熱ヒートポンプ空調機を採用します。昼間の最大食料時に、その冷気を貯り出して利用することで、エネルギーの平準化を図ります。
 - ・クールチューブを採用し、冷暖負荷を軽減します。
- 大屋根の吹抜を利用した省エネルギー化**
 - ・夏季や中間期には、吹抜部分の煙突効果を利用して自然換気を行います。吹抜上部に発生する熱溜りの熱を建物頂部から自然に排出し、冬季には、温室効果によって暖められた吹抜上部に溜まった熱をジェット・ノズルによって吹き下ろし、室内全体を快適な環境に保ちます。
 - ・吹抜空間は、居住域のみを空調する方式とし、冷暖負荷を最小限とします。

- 雨水や太陽光の積極的利用**
 - ・雨水を貯留して中水とし、便所洗浄水に利用します。夏季・中間期には、屋根面に敷水し、水が蒸発する際に熱を奪う作用を利用して、屋根の熱負荷を低減します。
 - ・大屋根には、透光性のある太陽電池パネルを部分的に採用し、太陽光エネルギーを活用しつつ、室内に自然光をもたらします。
- 合理的な構造でイニシャルコストを低減**
 - ・地下層を設けず、経済スパンで計画します。
 - ・軽集積材は別棟として、別途で計画します。
 - ・既製品やユニット製品を積極的に利用します。
- 長く長持ちする施設づくり**
 - ・耐久性、耐傷性に優れた素材を用い、汚れにくく、メンテナンスもしやすい計画とします。



●中間期・夏季の空調システム
吹抜の煙突効果を利用して、暖まった空気を適量に吸引し、自然換気を図る。

●冬季の空調システム
温室効果によって暖められた吹抜上部の熱を、ジェットノズルにより吹き下ろし、室内全体を暖める。

平成17年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ
基本・実施設計業務 設計候補者選定委員会

審 査 結 果 報 告 書

平成17年5月30日

沼津市長 齋藤 衛 様

平成17年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ
基本・実施設計業務 設計候補者選定委員会

| | | |
|------|-----|----|
| 委員長 | 長谷川 | 逸子 |
| 副委員長 | 平田 | 厚 |
| 委員 | 高橋 | 儀平 |
| 同 | 三谷 | 徹 |
| 同 | 清水 | 忠 |

平成17年度（仮称）ぬまづ健康福祉プラザ基本・実施設計業務設計候補者選定委員会は、平成17年4月25日に第1回選定委員会を、同5月23日に第2回選定委員会をそれぞれ開催し、指名型プロポーザルにおける設計候補者の選定を行ったので、その選定結果、審査の経過及び審査の評価について下記のとおり報告します。

記

1 選定の結果

設計候補者 株式会社 久米設計 静岡事務所

2 審査経過

(1) 第1回選定委員会

ア 選定委員会に先だち、選定委員の互選により、選定委員長に長谷川逸子が選ばれ、選定委員長が副委員長に平田 厚を指名した。

イ プロポーザル実施要領に基づき実施手順を確認し、提出書類作成要領、ヒアリング要領及び評価基準を決定した。

(2) 審査準備と公開ヒヤリング

ア 審査の準備

指名した設計事業者のうち5月18日までに、8社から応募があった。技術提案書はすべて無記名とし、到着順に符号（A～H）が付され、選定委員には各設計事業者の名前が一切分からないよう配慮され、審査の公平が確保された。

イ 公開ヒヤリング（平成 17 年 5 月 23 日 於：沼津市民文化センター）

符号の順に、各設計事業者それぞれ 30 分の持ち時間（プレゼンテーション 10 分、質疑応答 20 分）でヒヤリングを行った。説明者は総括担当者、意匠主任担当者の 2 名とし、説明資料は、事前に提出された資料の範囲内とした。説明の際、会社名が一切わからないよう配慮され、また、自社のヒヤリング時間以外の会場への立ち入りを禁じ、審査の公平が確保された。

（3）第 2 回選定委員会

ヒヤリング終了後、次のような過程を経て設計候補者の選定が行われた。

- ① 各選定委員の専門分野における評価の着眼点について、意見を交換した。
- ② 各提案について選定委員間で自由に意見を交換し、提案への理解を深めた。
- ③ 審査の方法について検討し、議論に基づく消去法により、設計候補者をしばっていく方法が採用された。
- ④ それぞれの提案に、各選定委員が意見を述べ合い、各提案の特徴、問題点を抽出した。意見の出つくしたところで、この案は残したいと一人でも発言のあった案以外の案を除外した。その結果、A 案、B 案、H 案の 3 案に絞り込んだ。
- ⑤ 続いてこの 3 提案について改めて議論が交わされ、さらに 2 案に絞り込んだ結果、全員一致で A 案、B 案の 2 案が選出された。
- ⑥ 続いてこの 2 提案について改めて議論が交わされ、無記名投票が行われた。その結果、A 案 4 票、B 案 1 票となり、最終討議により、全員一致で A 案を提案した設計事業者を設計候補者とすることに決した。
- ⑦ A 案を設計候補者とするにあたり選定委員会としての意見が加えられた。

以上の決定後、各設計事業者名記入書在中の封筒を、選定委員全員の立会いのもと開封した。

結果は次のとおりである。

- A 提案 (株)久米設計 静岡事務所
- B 提案
- C 提案
- D 提案
- E 提案
- F 提案
- G 提案
- H 提案

3 審査評価

(1) 評価基準

ア 設計業務担当者の実績等に対する評価

- ・今回の設計業務のため、スタッフが適切に確保されているか。
- ・スタッフの過去の実績、経験はどうか。
- ・業務への取組意欲はあるか。

イ プロポーザルで求める技術提案書の内容及びヒアリング内容に対する評価

(ア) 提案の的確性について

- ・土地利用に関する提案
- ・ゾーニング（動線計画等）、空間構成に関する提案
- ・環境対策に関する提案
- ・ユニバーサルデザインに関する提案
- ・大規模災害時での施設活用に関する提案

(イ) 提案の創造性について

- ・意匠に関する提案
- ・景観形成に関する提案

(ウ) 提案の実現性について

- ・経済性（インシャル及びランニングコストの縮減等）に関する提案
- ・工法・素材に関する提案
- ・省資源、省エネルギーに関する提案

ウ 工程計画と技術者の延べ動員数に対する評価

- ・設計への市民参加に対応できる配慮が十分になされているか。
- ・工程計画が具体的かつ細やかであるか。
- ・工程と延べ動員数を比較し余裕のある計画であるか。

(2) 評価の着眼点

ア 「沼津市の地域福祉を加速させていく拠点」というコンセプトが理解されているか。

イ ソフトを伴って設計していく柔軟性と、熱意があるか。

ウ 省エネルギーとランニングコストの低減について、効果的な建築となっているか。

エ 狭あいな敷地の中で、緑やランドスケープを、人と人とのつながりに活用しようとしているか。

オ 外観が、学園通りとの調和と街並み形成に対し研究されているか。

カ 利用者（ボランティア、障害者、学生等）の視点で、アプローチやパーキングが工夫されているか。

(3) 各提案の評価

A 提案

- ・ 人の動線やコンセプトがコンパクトにまとまっていてわかりやすい。
- ・ ボランティア活動や市民の具体的な福祉活動の内容を吸収し、逆提案できる対応能力が期待できる。
- ・ 地域福祉活動室、障害者支援活動室、福祉ボランティア活動室が同一フロアにフリースペースで配置され、一体的な福祉活動を可能とする点が評価できる。
- ・ 外観は、西側ルーバーが多いのが気になるが、正面性にこだわらず、多様性がある点が評価できる。また、街区に対し素直でやさしく、やわらかい。街に対するボリューム構成もカジュアルな表情で、心地のする現代風な感じが良い。
- ・ 南側隣地建物との隙間を緑化ウォールにすることにより、うまく空間化している。
- ・ 西面の庇が、空調コストの低減に有効である。
- ・ 2階、3階のステップテラスや4階、5階の北側芝生広場など緑が効果的に配置しており、市民活動にもつながる可能性が評価できる。
- ・ 屋外機置場の位置の検討が必要である。
- ・ 夜間救急医療センターのロビーが狭く、再検討を要する。

B 提案

- ・ 人の動線や施設のコンセプトがコンパクトにまとまっていてわかりやすい。
- ・ ワークショップ等から提案されるソフト事業に対し、柔軟な対応など配慮が感じられる。
- ・ 地域福祉活動室、障害者支援活動室、福祉ボランティア活動室が同一フロアにフリースペースで配置され、一体的な福祉活動を可能とする点が評価できる。
- ・ 多目的ホール自体を吹き抜けにした点がおもしろく、可動間仕切りがイベント開催時等に有効で評価できるが、構造的には疑問が残る。
- ・ 外観は街区に対しデザインが良く、高い庇がスケール感を出し街並み形成に有効で、ローコストにもつながる点が評価できる。また、大きなケヤキによる緑化がすばらしい。
- ・ 南側隣地建物との隙間を救急車輛の通路とし、うまく空間化している。
- ・ 駐車場からのアプローチ、周遊デッキは評価できるが、1階の車動線は複雑で、採用できかねる。
- ・ 1階風除室については工夫が必要であり、屋外機置場の位置は検討が必要である。
- ・ 楕円形の階段室は、利用者には見えにくく、わかりにくい。

C 提 案

- ・ 敷地中央に建物を配置し、周辺の植栽で騒音等を緩和する工夫が評価できる。
- ・ 大屋根の矩形と建物全体のボリュームが学園通りにマッチしておらず、北側への日照も心配である。
- ・ 身障者用駐車台数は、ハートビル法上からも不足しており、利用者の想定が出来ていない。
- ・ 西側エントランスホール吹き抜けにより、ランニングコストの増大が懸念される。

D 提 案

- ・ 大屋根が高すぎて、建物全体のボリュームが大きく、北側への日照も心配である。
- ・ 身障者用駐車台数が多く計画されていて評価できるが、車路を横切る人の動線に配慮が足りない。
- ・ 駐車場エレベーターが北端に一箇所では、利用者にたいへん不便であり、評価できない。
- ・ 間仕切りが引き戸で、広場型の自由な使い方ができる点が評価できる。
- ・ 西側階段吹き抜けにより、ランニングコストの増大が懸念される。
- ・ 西側の縁側バルコニーや縁側空間が、気候風土に対する配慮を欠いている。

E 提 案

- ・ 北西角を広くとってある点は評価できるが、学園通り側に閉鎖的な外壁は、街区形成上好ましくない。
- ・ 北側の木製ルーバーが、シンボル化していて機能的でない。
- ・ 駐車場をビルトインすることで、コストの増大が懸念される。

F 提 案

- ・ 外観イメージ図の樹木をわざと消してあるが、建物をみせるために緑を消すという考え方は評価できない。
- ・ 外観イメージが公共建築的で、サインがなければ何の施設かわからないといった建物である。また、このサインが評価をさげている。

G 提 案

- ・ 南側の活用提案は評価できるが、広くはない敷地を2つのデザインで分割するように見える。

- ・ シェルターが大きな割に、吹き抜け部分の省エネのみ考慮し、全体に活用されていない。
- ・ ヒヤリング時に地域福祉活動室と福祉ボランティア活動室を3階に配置したコンセプトは評価できたが、2階南側のわいわいデッキを商業施設に隣接して設置している点は配慮を欠いている。

H 提 案

- ・ ワークショップ等から提案されるソフト事業に対し、柔軟な対応など配慮が感じられる。
- ・ 大屋根の矩形と建物全体のボリュームが学園通りにマッチしておらず、北側への日照も心配である。
- ・ 西側エントランスホール吹き抜けにより、ランニングコストの増大が懸念される。
- ・ プレゼンターの福祉活動への熱意が感じられ、ヒヤリングでの評価は高い。
- ・ トイレが小さすぎて、利用者に不便となるのではないか。

4 A案に対する意見・要望

- (1) 全体の敷地構成が明確で動線も分かりやすい。また、各階平面は用途・機能ごと部屋を区分せず、利用者の主体性と弾力的な運営を創り出すためのオープンプランを採用しており、本施設の意向を汲んだものとして評価できる。

ただし、利用者自身の創造性が十分でないと本案の意図が崩れる危険もあり、このオープンプランを上手く柔軟に活用するアイデアを設計者側が積極的に提案し、市民に使い勝手がわからないままにならないよう（「未完な状態を残したまま」にならないよう）、以下の点に留意して責任のある設計をすること。

ア 可動式パーテーションや家具を設計提案し、個別ルームも設置するなど、市民の様々な活動（家族、高齢者、身障者、子どもまで）に応えられるよう工夫すること。

イ ボランティアをはじめとする市民の利用状況を具体的に把握し、空間構成（使い方）を複数提示すること。

ウ ワンルーム型に多い音響の問題（一般的問題だけでなくこの施設特有の相談内容の問題なども含め）についても対応すること。

- (2) 2階より上部は本施設独自の活動が見えやすいが、1階ロビーは機能オンリーで無個性に感じられる。接地階が一番重要となるので、1階でじかに具体的な活動が見えるようにすること。

当施設がボランティア活動の中心となるためには、市内各団体へのネットワークづくりなど市民や学生参加を促す必要があり、接地階は市民の情報ロビーでもあることから、もっと広々と積極的な使い方を検討すること。1階エレベーターの裏側（学園通りに面した方）の壁面も有効に活用したい。

- (3) ランドスケープについて多様な提案がされており、やわらかい建築になると期待している。ただし、少ないランニングコストの中でその魅力が失われてしまわないよう留意するとともに、メンテナンスについて市民の参画を検討すること。
- ア 外壁の堅ルーバーのデザインは今流行りではあるが、外観の工夫に先見性が求められる。特に南側の「スクリーン」は重要となるので、十分検討すること。
 - イ 学園通り側の高木植栽は、街路景観の代表となるようなランドスケープ意匠をすること。
 - ウ 南側のステップテラスや各階の小さな庭、北側の芝生広場や西側の街路樹などを建築と一体化させるとともに、これらが単なる緑化ではなく、本施設の自発的な活動を誘引するよう市民とよく相談すること。
 - エ 駐車場は緑地との混在を図り、環境との一体感を醸し出す工夫をすること。
- (4) 5階の機械室は西側に配置し、屋上南側を開放するとともに、ふれあい交流室を芝生広場と有機的につなぐ等、快適空間の形成に工夫をすること。